

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 臨床検査技術学科

職階 講師

氏名 小山雄一

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

病理検査学を主に担当している。病理検査学は病理診断を支える必要不可欠な分野であり、病理学をもとに成り立っている。これらの担当科目について、学生が興味を持って主体的に学修できるように導くことが責務の一つであると考えている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
病理検査学Ⅰ	臨床検査技術学科	必修	2	118
病理検査学Ⅱ	臨床検査技術学科	選択	4	69
病理学実習	臨床検査技術学科	必修	2	116
病理検査学実習	臨床検査技術学科	必修	3	87
組織学・同実習	臨床検査技術学科	必修	1	83
総合臨床検査学Ⅱ	臨床検査技術学科	必修	3	97
総合臨床検査学Ⅲ	臨床検査技術学科	選択	4	76
総合臨床検査学演習	臨床検査技術学科	選択	4	78
臨床検査総論実習	臨床検査技術学科	必修	3	87

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

教育の信念

学生にとって分かりやすい教育を目指すことを信念としている。臨床検査技師としての自身の経験をふまえて理解しやすい教育を実践していきたい。

育てたい学生像

医療従事者として活躍するためには専門的スキルに加え、周囲と連携するためのコミュニケーション力が重要である。そのため、汎用スキルや医療従事者に求められる人間性（協調性や責任感、向学心など）を学生に身に付けてもらいたいと考えている。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

難しそうな内容であっても学生がイメージしやすいように伝えるということが重要であると考えている。そのために講義資料作成の際には注意を払っている。具体的には、指定教科書の内容、国家試験の出題範囲を意識しながらどのように提示すれば学生が短時間で理解できるかという点を模索し、直観的に理解できるように講義資料に図や表を多く取り入れている。また講義途中に小括として複数の簡単な確認問題をはさみ、学生が講義のポイントをおさえ、知識のアウトプットができるようにしている。

（１）アクティブ・ラーニングについての取組

有

組織標本作製の実習

（２）ICTの教育活用

有

実習中のビデオカメラを用いた解説、Googleフォームを用いた小テスト、バーチャルスライドを用いた講義

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

学生が理解しやすいように教材を作成している。実習中はカメラを使用しながら手順などを説明している。

（２）学生の理解度の把握

B

授業評価アンケート

（３）学生の自学自習を促す工夫

B

小テスト

（４）学生とのコミュニケーション

B

質問があった場合には対応をしている。

（５）双方向授業への工夫

C

学生が受け身となることが多い。

（６）国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

B

国家試験対策講義の実施。国試受験者へのアンケート調査と次年度受験者への開示。他大学の取り組み調査（予定）。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）授業評価アンケート結果の授業への反映

不満な評価が記載されていれば次年度に改善するように努力している。

（２）（１）の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

不満な評価が減少した。

（３）（２）を踏まえた次年度の取組

次年度もアンケート結果をもとに改善をはかる。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

国家試験の対策を改善するために受験者へのアンケート調査を行っている。これまでの調査で得られた傾向を分析し、改善につなげる。

（２）（１）の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

早期に国家試験対策を始める学生がやや増加したが、一過性の可能性がある。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

各種のFD研修会に参加した。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

学生の理解度の把握に努めていきたい。教育手法に関して、自身で創意工夫を施すと共に（短期目標）、学内外における他の教育者の手法を参考にし、教育の質を高められるように努力していきたい（長期目標）。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

シラバス，授業評価データ